

自然環境保護に配慮した持続可能な観光創造

流山市流山駅西側地区を拠点とした自然・歴史・文化のまちづくり

大学院園芸学研究科 准教授 古谷 勝則
 地域観光創造センター 特任教授 賀来 宏和
 地域観光創造センター 特任研究員 中島 敏博

1. 地域の自然・歴史・文化を生かしたまちづくり

地域の自然・歴史・文化を活かしたまちづくりや観光振興を進める上で重要なことは、地元の市民が地域を知り、好きになっていくことです。身の回りの地域に、たくさんの「宝物」が眠っていて、それら資源に光をあてることが第一歩です。観光客が楽しむだけでなく、地元の人も楽しめるようなスポットを多く見だし、それらスポット同士の連携について考えていくことが大切です。さらには、市民が「宝物」を見つけ、観光客に楽しんでもらえれば、「宝物」は市民の誇りとなり、地域への愛着へとつながります。愛着が生まれれば市民は率先して自然・歴史・文化の「宝物」を守って、次の世代へと持続して伝えてくれるはずで、持続可能な観光創造とは、市民の「宝物」への愛着が生まれ、「宝物」同士の連携がとれ、次の世代までつながるようなビジョン（調査計画）を示すことと考えて、このプロジェクトを進めました。

2. プロジェクトの概略と参加メンバー

流山市は古くからの商家と社寺が点在するまちなみと、江戸川沿いの自然景観、台地上部の住宅地とで構成されています。今でも流山の特産として有名な白みりんの醸造は、江戸中期に始まりました。江戸時代、小林一茶は流山を何度も訪れ、現在、一茶双樹記念館となっている家で俳諧活動を行ったとされています。つくばエクスプレス開通以降、流山市街地の発展はその沿線に集中し、松戸市と流山を結ぶ流山電鉄の乗客数は30%も減ったと言われています。プロジェクトの対象としました「流山市流山駅西側地区」は、「宝物」はたくさんあるが、それらの連携や持続的な保護が課題となっています。また、同地区に位置するメルシャン工場の移転も決定し、まちの活性化も重要な課題となっています。

流山市には千葉大学の前身である千葉師範学校の発祥の地の石碑（常与寺）があり、千葉大学は明治時代に流山市で生まれたとも言えます。流山市は園芸学部のある松戸市の隣にありながら、なかなか訪れる機会に恵まれなかった場所です。今回、学生が何度も流山市を訪れて、大学と流山市との連携も深まったと考えています。

プロジェクトの成果報告として2007年度と2008年度に地域観光創造センター発行の報告書を印刷しました。2007年度の報告書は165頁で、学部生の作成した調査計画と大学院生の実践活動を報告しています。2008年度の報告書は134頁で、学部生の作成した計画をまとめています。学部生は、園芸学部緑地・環境学科のデザイン実習Ⅴを履修して、大学の授業として作成しました。大学院生は、大学院園芸学研究科の博士前期課程の学生を中心にボランティアで実践活動（2008年度）を行いました。

2007年度プロジェクト参加学生：及川一輝、鈴木薫美子、吉野美沙樹、村松保枝、中山暁絵、田中竹子

2008年度プロジェクト参加学生：鈴木有、戸田正輝、八月朔日大輔



写真 左から江戸川沿いの自然景観、一茶双樹記念館、流山電鉄の流山駅、千葉師範学校の発祥の地の石碑

地域観光創造センター 実践活動部門

3. 緑地・環境学科3年生による流山のまちづくり調査計画書

地元の人にも観光客にも移動しやすく、散策したくなるような魅力的な資源があり、他の人に語ることでできるようなまちづくりを考えたのが、まちづくり計画です。本原稿の後半に作品の一部を掲載しました。

4. 大学院緑地環境学コース学生による実践活動

ニーズを的確に把握し、説得力のあるビジョンを示さなければ、人を動かすことができず、また、実行するだけでなく継続することがポイントです。さらには、実行するに当たって最も大切なことが「おもてなしの心」です。平成20年3月15日、16日に、千葉大学と一茶双樹記念館がタイアップして、華展と公開教室を開催しました。スケジュールは表1を参照下さい。

参考文献

- 古谷勝則・中島敏博・賀来宏和：流山市流山駅西口地区を拠点とした自然・歴史・文化の街づくり調査計画書、千葉大学地域観光創造センター、1-165、2008年3月
- 鈴木有・戸田正輝・八月朔日大輔・古谷勝則：流山市流山駅西口地区 自然・歴史・文化のまちづくり計画、千葉大学地域観光創造センター、1-134、2009年3月
- 古谷勝則：風景計画、自然風景地の計画・管理（特集・ランドスケープ研究の動向）--（造園計画）、ランドスケープ研究、72(1)、43-47、2008年
- 古谷勝則：自然環境の保護と利用、平成19年度千葉大学観光人材育成講座報告書「住んでよし訪れてよしの観光地づくり」、千葉大学地域観光創造センター、230-234、2008年
- 青木陽二・古谷勝則・松島肇、高山範理：日本とロシアの自然風景の評価比較プロジェクト、日本観光研究学会第23回全国大会論文集、477-478、2008年
- 古谷勝則：実用都市づくり用語辞典（矢島隆他編著）、山海堂、総頁数455頁、本人担当部分：14, 24, 43, 75, 155-156、2007年
- 古谷勝則：平成17~18年度 科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究成果報告書（研究代表者：古谷勝則）千葉県北総地域における里山活動の実態と緑地面積の変遷について、1-129、2007年
- 古谷勝則・齋藤伊久太郎・加治隆・金宣希：日本における環境白書のアメニティ政策動向、日本造園学会関東支部大会事例・研究報告、25、33-34、2007年

表1 千葉大華道部龍生派×流山 スケジュール(中島、賀来、古谷他)

時間	全体の動き	一茶双樹記念館 華展の流れ	喫茶黎明 体験教室の流れ	スタッフの動き	備考
		現地視察		広報 弁当の注文、飲み物の買出し 車の手配	現地案内の必要性
3月14日(金)					
		花の手配		搬入作業	希望時間帯 荷物の内容 人数把握 荷物の保管場所
3月15日(土)					
9:00		華道部現地入り 打ち合わせ		注意事項の説明、会場準備	当日の搬入荷物
9:30	開館	活け込み開始 公開教室~12:00		体験教室の受付開始	
12:00		活け込み終了 ~お昼休憩~	会場の確認	↓ 受付終了 お弁当の準備(先生方のみ) アトリエ黎明の会場準備	花代徴収 2000円 花・剣山は持ち帰り
13:00		華展開始 作品説明	体験教室開始 13:00~(6名) 14:30~(6名)		午後人数(華展) 講師人数2名 ●慰労会(予定)
16:00		華展終了			
17:00	閉場	1日目終了			
3月16日(日)					
9:00	開館	華展開始 作品の修正 ~お昼休憩~			作品説明可能人数
12:00		~お昼休憩~			
13:00		華展終了 あげ花			
16:00				会場からの撤収開始	
16:50	閉場			荷物の運び出し 大学へ荷物輸送	荷物の運び先
17:00					

流山市におけるまちづくり

～流山駅西側地区を事例として～

千葉大学 園芸学部 緑地・環境学科
 鈴木有 戸田正輝 八月朝日大輔 担当教授・古谷勝則

作品概要

本作品は、流山駅西側地区を事例として一茶双樹記念館を核とした地域活性化を図るものである。
 対象地における現地調査・アンケート調査に基づく課題抽出をし、自然環境を保護するための適切な利用として、『まもる』『散策する』『PRする』という三つの視点から改善提案を掲げた。



対象地の概要

流山市は古くからの宿場町と江戸川氾濫原の田園風景、台地上部の畑や里山の雰囲気を残す住宅街という構成からできている。
 本地区は江戸時代にみりんの生産で著名な地となり、また現在も江戸川の自然と共に歴史や芸術活動など、多様な観光資源の可能性を秘めた地でもある。
 しかし、つくばエクスプレス開通以降、流山市街地の発展はその沿線に注視され、本地区は注目を浴びにくい地区になっている。
 このような背景より、観光資源の有効活用、住み良い環境づくり、地域の活性化が重要な課題となっている。

対象地の自然・歴史・文化資源



計画 1 現状

計画背景

現状 観光客数

アンケート調査の実施

- 調査方法
 - 知り合いの流山中長、一茶双樹記念館の協力のもと、30人程度に実施
- 調査内容
 - 流山市内の建物で「知っているもの」と「知らないもの」を調査
 - 「流山市内で必要な施設」と「必要だと感じない」と「流山市内で十分だと感じる」と「不十分だと感じる」とをそれぞれアンケートで調査
 - 現在の市内の資源についての住民の認知度と流山市内で「必要」と「不十分」な項目を調査

アンケート調査の結果より

- 流山市内の歴史的建造物などについて近隣住民の人々は認知はしている
- しかし、興味を持っていない人々がほとんどである
- PRの仕方がまずいと思われるのではないか？

計画 2 基本方針

現状のまとめ

環境整備が不十分
資源が散在状態で孤立している
市内外問わずPRが足りていない

計画の基本方針

新しい波が来たからこそ、歴史あるまちなみを復元し、つくばエクスプレス開通による活性化を波及させる。

計画主題

- テーマ「繋げる」
 - 市内を繋げる
 - 都市地域と市外とのまちなみを繋げる一拠点の再発見、再発見の演出
 - 都市と繋げる
 - 自然観光地としての確立一地域の活性化

『繋げる』原動力は 自然・歴史・文化資源

流山市におけるまちづくり

- ① 歴史まちづくり法の適用
- ② 回遊を誘発する提案
- ③ 流山市活性化PR

↓

流山市の活性化

提案

『まもる』

歴史まちづくり法の適用

歴史まちづくり法 概要 モデル

周辺の開発が進み、重要文化財が孤立する、また老朽化も進む

重要文化財が修復・復元され、周辺景観に規制がかかる

開発 → 重要文化財に指定され、保護される → 歴史まちづくり法の適用

目的

- 観光都市としての基盤づくり
- 流山駅西側地区の再発見と歴史の再評価
- 駅心からの再発見と観光地としての確立
- 地域住民に魅力の再発見してもらう

歴史まちづくり法 位置づけ

計画提案

- 立ちをまもるために
 - 流山市において歴史まちづくり法を適用する
 - 歴史・伝統を守った美しいまちづくり
 - 市内内外の人に魅力の再発見してもらう
 - 地域の活性化
 - 文化施設の創設を促す
 - 観光都市としての基盤整備
- メルシャン工場跡地の検証
 - 高層マンションが立地した場合

『散策する』

ルートマップの作成

各スポットに『繋がり』 ルートマップ

既存のルートマップ

提案ルートマップ

目的

- 主にルートマップを利用した観光客誘致
- 回遊の誘発
- 一茶双樹記念館周りを中心とした活性化
- 流山の認知度向上

提案 ルートマップ

- 広範囲のルートマップを避け、出来るだけ近い範囲
- 一茶双樹記念館周りを
- ただ直線的に観光客が小さくなるのではなく、「回遊」(回遊してを回遊して楽しむ)できるルートマップの提案
- 既存のマップとは差別化したマップ

提案 ヘルムマップ

- 『ツナガリルートマップ』
- 各スポットを結び、実際に歩く距離が短くなり、観光客や来訪者に楽しんでもらうプログラム
- 本調査が主目的で見つけ出すことで「遠慮」、「好奇心」、「関心」が生まれる
- 再発見を促すルートマップ

『PRする』

観光基盤整備と緑の活用

看板の設置・改修 道の整備 緑との連携

看板の改修

既設の看板 目立ちにくかったり古い

改修

道の改修

白線でのみ区切られている

改修

緑石で区切られた歩道

車がすれ違うのには狭い道路

車がすれ違う道幅に拡張

緑との連携

- オープングリーン
- 緑を、各景観で活用しているオープングリーンを個人の園から公園へと広げさせる

↓

流山の街全体をオープングリーンとして流山を特色付ける

目的

- 人々の関心を引く
- 安心して通行できる道づくり
- 緑を利用した付加価値作り

流山市におけるまちづくり

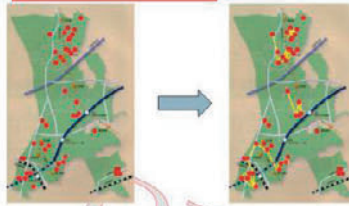
～流山駅西側地区を事例として～

千葉大学 園芸学部 緑地・環境学科
鈴木有 戸田正輝 八月初日大輔 担当教授:古谷勝則

歴史まちづくりを進める重点区域のイメージ



緑との連携



点にしているオープンガーデンをつなぎ街全体をオープンガーデンとする

緑の活用



オープンガーデンが拡大した道のイメージ

新たな看板の提案

- 新たに設置する看板は、流山の雰囲気を壊すことなく、また誰が見ても分かりやすい看板を意識してデザインした。



右方向→近隣勇降屋敷
左方向→一茶双樹記念館の交差点

『繋がり』=『新撰組』



提案 仕組み

- 『ツナガルートマップ(全4種)』を来訪者に提供(一茶双樹記念館などに配置)
- 来訪者はルートの各スポットがどのような共通項で『繋がっている』のかを発見していく
- 『繋がりに』と『なぜ繋がっているのか』を答え合わせ
- 全てを回った方には
 - 景品(花の種、絵筆書)
 - 流山市文化検定へ級等の賞与を授与

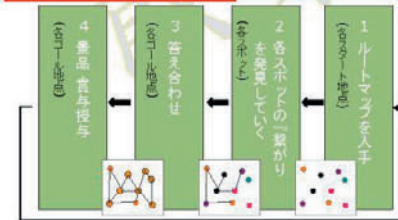
散策ルートの活用方法

- 散策ルートの要所にスタンプ台を設置し、スタンプラリーの要領でルートを回ってもらう
- 全てのスタンプを押した方には、GreenDynamicsさんより季節に合った花の種を配布していただく
- 散策ルートは全部で4種類あるが、どのルートを回っても種の配布を受けることは出来る

スタンプの例



提案 仕組み



『繋がり』=『俳句』



『繋がり』=『みりん』



『繋がり』=『戦争』

